

平成 30 年度文化創造関連事業の実施状況

平成 30 年度は、クラフト市場街と同時期の 9 月 22 日（土）・23 日（日）に日本遺産サミットを行い、市内の関連団体と連携し、高岡のものづくりの歴史や町民文化を広く PR する機会とした。また、休館中の市民会館の機能を補うため、高岡市民文化振興事業団等と連携し、まちかどやユニークベニューなどを活用した芸術文化活動「Ars nova-音楽の祭典-」を展開した。

1 アート&クラフトシティ高岡を表現した事業の実施

(1) 工芸都市高岡の秋 2018（知る・創る・つなげる・伝える）

9 月 21 日（金）～24 日（月・祝）を会期として、今年度は以下の 5 つのイベントを同時開催した。文化創造課の予算事業は「高岡クラフト市場街」「日本遺産サミット in 高岡」であるが、その他のイベントの実行委員会や関係他課と連携し、「工芸都市高岡」の魅力発信、来場者増、関係団体の連携強化などの目標を共有して取り組んだ。

○クラフト市場街／来場者数 27,600 人（昨年 23,000 人）

総計 74 の展示・体験・食・音楽イベントを楽しめるクラフトに関する総合イベントとして開催。今年度は山町筋歩行者天国の実施時間を拡大、「作家のひきだし展」「職人・町人スタンプラリー」「市場街ナイト」「銅物の放し飼い」などの人気コンテンツを充実させるとともに「職人バー」などの新しい試みを加えることで、昨年度よりも多くの来場者を得た。

○工芸都市高岡 2018 クラフト展／来場者数 3,457 人（昨年 3,429 人）

第 32 回目の開催。439 点の入選作品が大和高岡店の催事場に展示された。

○ミラレ金屋町／来場者数 20,000 人（昨年 24,800 人）

これまで「金屋町楽市 in さまのこ」として開催していたイベントがリニューアル。407 年の歴史を誇る町並みで、「工芸の展示」とあわせて「伝統的な町屋の暮らし」を楽しめるイベントとなった。

○戸出銅器団地オープンファクトリー／来場者数 300 人（昨年 511 人）

今回で 2 回目の開催。高岡銅器団地組合が結束し、オフィシャルツアーのほか、オリジナル商品の販売やパネル展示により、地場産業の魅力を発信した。

○日本遺産サミット in 高岡／来場者数 7,300 人

全国 67 の日本遺産協議会が一堂に会し、それぞれのストーリーを発信。全国各地の文化の多様性と豊かさを体験、体感できるイベントを開催。（詳細を後掲）

(2) 文化創造都市高岡市民会議（知る・創る・つなげる・伝える）

アート&クラフトシティ高岡推進委員会と市による企画・運営。異なる分野の文化・芸術をつなぎ、アート&クラフトシティ高岡を表現するイベントを実施し、その中で市民との対話を通じて、本市の文化に対する意見や課題の把握を行った。

・ふるこはんフェス

10 月 6 日（土）／勝興寺 来場者数 3,000 人

（コンサート入場者数 180 人）

・ひなフェス in 山町ヴァレー (予定)

3月10日(日) / 山町筋

2 文化創造都市高岡テレビ番組の作成 (知る・伝える)

文化創造都市高岡の実現に向け、文化を活かしたまちづくりに取り組んでいる方々(大学、活動団体、アーティスト等)を紹介する番組を制作した。

約2分30秒/毎週5回程度放送

4月 大菅 麻希子 (COMMA. COFFEE STAND)、ROBIN'S EGG BLUE (MUSICIAN)

5月 平野 暉 (GEIBUN GALLERY)、竹中 志光 (クラフタン)

6月 伊藤 昌徳 (家 S')、大島 紀明 (ビール醸造家)

7月 中村 孝富 (中村美術工芸)、塚田 高史 (たかおか落語ふあんくらぶ)

8月 斉藤 翔太 (高岡地域地場産業センター)、舟木 聡史 (舟木工匠 大工)

9月 定塚 康弘 (北辰工業所)、堺谷 陽平 (富山県eスポーツ協会)

10月 藤田 衛治 (オタヤ開発)、三船 温尚 (富山大学教授)

11月 中村 喜久雄 (中村美術工芸)、田辺 恵子・高沢 満里子 (オタヤこども食堂)

12月 向 敬至 (伏木観光推進センター)、牧野 友香 (ふしき坂ノ上ヴィレッヂ)

1月 吉野 武司 (里山活性協議会)、山田 浩幸 (開進堂楽器)

2月 高田 哲 (越中福岡の菅笠振興会)、出口 純子 (北陸アルミニウム)

3 文化創造都市高岡ウェブサイトの運営 (知る・伝える)

平成27年度末に開設したウェブサイト「文化創造都市高岡」の内容を発展させ、記事を掲載した。今年度から、高岡市FBでのシェアによるPV数向上に取り組んだ。また、高岡市FBと重複しない文化イベント情報を丁寧に拾うことや、告知型ではない「レポート」記事や「工場・工房」紹介に重点を置いて更新した。

平成28年度 23,342PV 月平均1,945PV

平成29年度 25,134PV 月平均2,095PV

平成30年度 21,079PV 月平均2,108PV (1月末まで)

4 Ars nova—音楽の祭典— (知る・創る)

一年を通して、市民に質の高い音楽の鑑賞、演奏や合唱の機会を提供するため、音楽のジャンルやまちづくりの垣根を超え、まちかどやユニークベニューなどの空間を活用した音楽の祭典を開催した。

(1) 日露交歓コンサート

9月29日(土) / 富山県高岡文化ホール 入場者数 520人

(2) 青空シンフォニア

9月30日(日) / 高岡駅南北自由通路「万葉ロード」 入場者数 200人

(3) 高岡市芸術文化シンポジウム「アーティストと紡ぐ高岡の未来」

／TAKAOKA 西へ東へ。パープルおでかけサロンコンサート

アーティストが地域住民と共に芸術文化活動に取り組むことで、地域の持つポテンシャル・魅力をアートの視点から引き出すとの視点で、他市の事例も参考としながら芸術

文化の力によるひとづくり・まちづくりについて考えるシンポジウムを開催。

事例発表者 青森県八戸市まちづくり文化推進室 大澤苑美氏

11月24日(日) / 高岡市生涯学習センター 入場者数 100人

5 万葉のふるさとづくり関連事業

(1) 高校生万葉短歌バトル(知る・創る)

8月26日(日) / 高岡市生涯学習センター 入場者数 300人

(2) 万葉故地サミット(つなげる・伝える)

10月6日(土) / 多賀城市民会館 入場者数 300人

6 日本遺産をはじめとする歴史・文化資産を活用した魅力発信関連事業

(1) 日本遺産推進協議会への補助(知る・創る・つなげる・伝える)

「日本遺産サミット in 高岡」の企画・運営をはじめ、日本遺産連盟の会長市として、地域に根ざした日本の多様な歴史・文化の魅力を発信した。

・日本遺産サミット in 高岡

日本遺産の認定を受けた全国67協議会が一堂に会し、認定されたストーリー・全国各地の歴史・文化を、ワークショップやグルメ、触れる展示など、体験・体感として魅力を感じていただけるようPRした。日本遺産の魅力を幅広い世代の方々に楽しみながら深く伝えることができた。サミット当日に行われていた「工芸都市高岡の秋」のイベント会場を、エクスカーションやサテライト会場とし、市外からの来訪者にも本市の魅力を発信した。

9月22日(土)・23日(日) / 高岡市生涯学習センターを中心に市街地一帯

来場者数 7,300人

(シンポジウム280人、ワークショップ体験者延5,060人、事例発表会120人、

プレエクスカーション80人、エクスカーション70人、勉強会・商談会110人)

(2) 北前船日本遺産への追加認定

平成29年4月に認定を受けた「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に、高岡市内の文化財が平成30年5月24日に追加認定。高岡市広報紙、地元テレビ放送(30分の特集番組)、地元小学校でのワークショップ等で周知。寄港地・船主集落として認定を受けている全国38の自治体と連携し情報発信。

7 藤子・F・不二雄氏の顕彰にかかる関連事業

(1) アトラクティブ高岡推進事業(知る・伝える)

ドラえもんトラム、電停、ポストなどの継続実施。

(2) ガイドブック等の制作・配布(知る・伝える)

(3) THE ドラえもん展 TAKAOKA 2018 の開催(知る・伝える)

東京・森アーツセンターギャラリーにて、2017年11月から2018年1月まで開催された「THE ドラえもん展 TOKYO 2017」の全国巡回展の第一弾を、藤子・F・不二雄先生のふるさと高岡で開催。

3月16日(金)～5月6日(日) / 高岡市美術館 来場者数 55,528人

(4)高岡市 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーの運営（知る・伝える）

平成 27 年度入場者数（12～3 月）	12,425 人
平成 28 年度入場者数（4～3 月）	38,606 人
平成 29 年度入場者数（4～3 月）	41,775 人
平成 30 年度入場者数（4～1 月）	48,729 人

8 beyond2020 認証取得の支援（知る・伝える）

日本文化の魅力を発信するとともに、障害者にとってのバリアを取り除く取り組みや、外国人にとっての言語の壁を取り除く取り組みに対する認証の取得を支援する。

平成 29 年度／6 件

平成 30 年度／6 件

9 高岡市民文化振興事業団への委託・補助による文化振興事業（知る・創る・つなげる）

地域の芸術文化の振興を図るため、市民文化振興事業団と連携し、市民文化の普及向上に関する文化振興事業に取り組む。

<特徴的な事業>

- ・高岡市芸術祭
- ・10 歳のファーストコンサート、劇団四季「こころの劇場」
- ・音楽文化のまちづくり事業（オーケストラ公演、風と緑の楽都音楽祭等）
- ・高岡文化ストック⇒クラウド事業（第一線で活躍するアーティスト等を講師としたワークショップやクリニック）

<指定管理委託している文化施設>

(1)高岡市万葉歴史館

春・秋 正月特別展 ほか

(2)高岡市美術館

コレクション展「高岡の金工・漆芸」ほか

企画展 「高岡市民美術展」

「本坊一般公開記念 勝興寺展」

「椿絵名品展 つばき咲く 一光琳、大観、夢二など」

「クリエイティブ・たかおか」

「GEIBUN 10」（富山大学芸術文化学部大学院芸術文化学研究科卒業・修了研究制作展）

「日本伝統工芸富山展」

「高岡市美術作家連盟展」ほか

(3)高岡市立博物館

特別展「古写真にみる高岡」

企画展「堀田一族と伏木～堀田善衛生誕 100 年・日本遺産「北前船寄港地」追加認定記念」

常設展、館藏品展ほか

(4)ミュゼふくおかカメラ館

コレクション展

企画写真展「白鳥真太郎写真展 貌・KA0II 白鳥写真館「これから…」」

「新美敬子写真展 ねこと、いぬと、いつまでも一世界で出会ったそれぞれの暮らしー」

「青木紘二 冬季オリンピック 報道の世界」

「浅井慎平写真展 「HŌBŌ」「星の片隅」より」ほか

10 その他

(1) 日中若手職人交流事業／産業企画課

中国中小企業商業協会と呉曉波チャンネルが、「第 1 回日中若手職人交流事業」を日本で開催。中国から約 200 名の若手職人・メディア関係者等が東京でフォーラムと展示、交流、視察に参加する中で、高岡市が、国内 3 か所（他 東京、京都・大阪）の視察先のひとつとして選ばれ、プロデューサーの呉曉波氏をはじめ、約 200 名の参加者の大半である約 160 名の方々が来高。高岡の職人や地場産業を視察。

10月15日（月）、16日（火）

(2) 薬師寺東塔相輪の修復／産業企画課

伝統工芸高岡銅器振興協同組合が国宝・薬師寺東塔相輪を修復。

(3) 先端技術と伝統技術の融合による文化財修復拠点化事業／産業企画課

高岡市立博物館に所蔵される 4,000 枚の工芸品の図案の中から、明治期の図案を選び、立体物を製作。高岡の金属工芸技術による再現力を示した。

(4) ジャポニズム 2018 への出展／産業企画課

日本の地方に根付いた伝統産業技術にスポットを当て、地域の魅力をフランス国内に発信する「ジャポニズム 2018」公式企画「伝統と先端と～日本の地方の底力～」に市として出展。伝統工芸高岡銅器振興協同組合と連携し、高岡銅器に関する展示・販売・企画イベントを実施。2017 年度に取り組んだ釈迦三尊像再現プロジェクト映像の放映と職人によるトークイベントも同時開催。

パリ市 2月5日（火）～16日（土）、ナント市 2月2日（水）～24日（日）

(5) 平成の御車山完成／観光交流課

5年の歳月をかけて制作された平成の御車山が4月30日に完成、公開。若手職人が本プロジェクトにかかわることで、文化財修復技術の継承や後継者育成が図られた。制作費のおよそ3分の1は市民、経済団体等からの寄付によった。試し曳きによる安全性の検証も行われ、今後の利活用が検討されている。

(6) 金屋町・移住促進ハウス「さまのこハウス」完成／商業雇用課

5月12日（土）／金屋町

主屋棟には若手職人の作品が展示される土間ギャラリーも設置。

(7) リノベーションスクール／商業雇用課

高岡市中心市街地活性化協議会（事務局：末広開発（株）まちづくり事業部）が2017年から実施している事業。リノベーションを通じた都市再生手法を学び、不動産の再生を通じて、まちなかでの新しいビジネスを生み出し、エリアを再生するまちづくりの実践を行っている。

(8)勝興寺本坊公開／生涯学習・文化財課

寺院建築として全国有数の規模を誇る重要文化財 勝興寺が、20 年余りの歳月をかかけた「平成の大修理中」である。2021 年度の全体公開に先駆け、8 月 4 日に本坊の一部公開が行われた。勝興寺を地域のために活かし、後世に継承していくため、勝興寺を核とした地域づくりの取り組みが行われた。

8 月 4 日 本坊一般公開

10 月 6 日 ふるこはんフェス

10 月 21 日 勝興寺文化財デジタルアーカイブ公開

11 月 8 日 寺町サミット in 高岡 など

(9)アール・ブリュット／社会福祉課

高岡市伏木で活動していたアート NPO 工房ココペリの活動が広がり、運営をココペリが担う形で、同工房内に富山県障害者芸術活動普及支援センター「Be=ART◎ Toyama」が開設された。これまで毎年 1 回高岡市美術館市民ギャラリーで展示会を開催してきたが、これに加え、本年は高岡市古府郵便局の協力を得て、郵便局内など地域の方が集まる会場にも展開。

(10)熱中寺子屋／道路整備課

社会人を対象に、地域の人材育成、異業種間・地域間交流、特産品開発などの学びの場を提供する取り組み。IT 企業などの社長、大学教授、デザイナー、技術者などの多様な教諭陣が講義。2015 年 10 月に山形県高畠町ではじまり、現在全国 10 地域で 600 名を超える社会人生徒が学ぶ。他県では熱中小学校、高岡は瑞龍寺で授業を開催するため、「熱中寺子屋」という名称。2019 年 4 月から第 6 期開講予定。